

# 他制度と連携進むCCUS

## 建設業各種制度説明会

建設業各種制度説明会



建設キャリアアップシステム普及の動きや連携する他制度の概況を学んだ＝鹿児島市の県建設センター

建設業各種制度説明会を開催。労働協同会人材育成対策室は、センターで建設業関係各

種制度説明会を開催。労働担当者ら約150人が参加し、建設キャリアアップシステム(CCU)や連携する他制度の最新情報などについて理解を深めた。

2022年11月に鹿児島・奄美会場で開かれた同説明会では、定員を上回る応募があったため今回の開催に至った。

建設業振興基金建設キャリアアップ事業本部の上浪鉄郎審議役がCCUS普及について他制度との連携が進む現状を説明した。技能者の処遇改善や施工能力の見える化に欠かせない同システム。カードリーダー等を利用したデータ化で効率的な

# 最新診断システム理解

## 県、道路施設点検の新技术講習



県内コンサルタントや県出先職員を対象に61人が参加した＝鹿児島市のマリポート大橋

県道路維持課(椎原賢次課長)は10日、道路施設の定期点検に係る新技术講習会を開催した。県内コンサルタントや県出

先職員を対象に実施し61人が参加。鹿児島市のマリポート大橋で行われた現場体験では、最新の

小型ドローンでの点検や画像診断システムを学んだ。道路施設の定期点検は

笹子トンネル崩落事故をきっかけに5年に1回の頻度などが法律で義務付けられ、県でも現在2巡目の点検を実施している。

また、点検は近接目視で状態の把握を基本としていたが、2019年に点検要領が改正され、効果的に進められるよう点検支援技術に関する記載がされ、ドローンによる点検等の導入が加速した。同講習会は座学(かごしま県民交流センター)と現場(マリポート大橋)で行われ、全方位衝突回避センターを有する小型ドローン技術(ジャパン・インフラ・ウェイ

マーク)とコンクリート構造物のひび割れを、写真から自動検出する社会インフラ画像診断サービスマーク)の新技术に触れた。

椎原課長は「老朽化対策は重点的に進めている。県でもコスト削減や効率性はもとより、働き方改革の観点からも、新技术を活用した点検を推進している。今後も、さらなる活用促進を図りたい」と話した。

なお、同課では道路通行規制情報や道路の維持管理に係る情報をツイッターの公式アカウントで発信している。

## 国見トンネルで防災訓練

### 連携・初動体制など再確認

肝付町の国見トンネルで9日、防災訓練があった。県大隅地域振興局建設部をはじめ、肝付町や消防・警察関係の担当者

ら約90人が参加。災害発生時の連携および初動体制などを再確認した。

同日は、県道神之内川内浦線の同トンネル(L3300m)内の内之浦側坑口より約500m付近で、内之浦方向へ走行中の軽乗用車がセンターラインを越え対向してきた普通乗用車と正面衝突し、車両火災が発生したことを想定して実施。

訓練では、関係機関相互の連絡・情報伝達、救急・救助や消火活動、現場付近の交通規制、防災設備の運用などに緊張感を持って取り組んでいた。なお、同トンネルでの訓練は17回目。



車両火災発生を想定し救護活動を行う参加者＝肝付町の現地

事故は対応が非常に難しいもの。今回の訓練で連携・初動体制の確認など行えたのではないかと考えている。引き続き、関係機関が連携を図り、協力しながら利用者の安全確保に努めていきたい」と述べた。

## 建災防、無災害運動月間説明会

### 鹿児島分会

建設業労働災害防止協会鹿児島分会(谷口明広分会長)は10日、鹿児島市の県建設センターで建設業無災害運動月間説明会を開いた。写真

は、会員事業所の代表者や安全管理責任者ら約70人が参加して、年度末の多忙な時期に、墜落・転落・崩壊など徹底した災害防止対策を図ることを確認した。

講師は、鹿児島労働基準監督署安全衛生課の勇



### 宮之城分会

建設業労働災害防止協会鹿児島支部宮之城分会(四元大志分会長)は10日、さつま町の宮之城建設会

館で開いた「写真」。会員企業の安全衛生管理責任者ら約20人が参加。年度末の多忙期を前に、基本的な安全対策の認識を新たにしたい。説明会では、川内労働基準監督署安全衛生課の大松拓生課長が墜落・転落等の労働災害防止対策、アーク溶接、リスクアセメントなどについて説明した。

大松課長は、安全第一という言葉の意味について「安全第一で急いで作業を、安全第一で丁寧な作業を、などという一番が二つ以上になると事故が起りやすい」と注意を呼び掛けた。

## 次世代自動車を学ぶ

### 技術士会県支部が講演会

日本技術士会九州本部は11日、鹿児島市のかごしま県民交流センターでCPD講演会を開いた。会員内外から32人が参加。地球温暖化などの環境問題を切り口に次世代自動車の技術等について学んだ。

近年、化石燃料の燃焼に伴う大気汚染やエネルギー問題が深刻化。世界的に低炭素化が求められる中、産業界では石油に依存しがちな自動車の

36回目を迎えた定例の講演会(CPD3単位)。県内外の大学教授を講師に招き、このうち第一工科大の飯屋孝二機械システム工学科長は「低炭素社会における次世代自動車」をテーマとした。

ほか、宮崎大の村上啓介副学長は海岸・港湾工学に触れながら波浪現象などを説明した。井内支部長(中央テク)

「これは、火災を伴う大きな事故は発生していないが、トンネル内での

「無償でダウンロードできる就労実績報告作成ツールを用いれば、元請・下請間の共済証紙請求様式として利用できる」と利便性の高さを伝えた。

「新技術開発に期待が高まっている。飯屋教授は環境・エネルギー問題や自動車の地球温暖化対策などを解説。次世代自動車について、普及実績のほかキーワードのCASE(つながる・自律化・共有・電動化)も述べ、課題を説いた。

購読料のお支払いはお手軽で便利な

### 自動振替で

鹿児島建設新聞  
099-227-5100へ